

雨ニモマケズ、夏ノ暑サニモマケヌ 「おいでまい」、「特A」復帰への道のり！

■ 綾川町「おいでまい」生産者 ■

中讃農業改良普及センター（眞鍋雄二 ○山田浩三 高八 弘 藤井貞吉 瀧川裕史
片桐弘樹 長尾昌人 香西 宏 藤田大輝 松本智也）

●対象の概要

平成25年の本格デビューから2年連続で日本穀物検定協会「米の食味ランキング」で最高評価「特A」を獲得した県オリジナル水稻品種の「おいでまい」。高温登熟性に優れ、高い1等米比率を誇り極良食味米としても実証され、関係機関一体となった生産・販売体制により、県内外を通じて知名度及び需要が増大しているところである。

しかし、平成27年産は登熟期の天候不順などで「特A」を逸したことから、平成28年産は「特A」再獲得が最重要課題となった。また、「外観品質1等、玄米タンパク質含有率6.5%以下（水分14.5%補正後）」を満たすブランド化を目標に、需要に応じた更なる生産拡大が求められた。

●課題を取り上げた理由

「良質米産地」として有名な綾川町は、一般栽培が始まった平成25年に県下で初めて「重点推進地域」に指定され、関係機関一体となった取組みと生産者の理解と協力により、栽培面積は470ha、CEを含む1等米比率は96.0%と過去の普通期品種に比べ驚異的な上位等級となった。

しかし、その後は登熟期の天候不順による減収やいもち病に「弱い」ことなどから、作付面積の減少や品質低下もみられている。

そこで、高品質・安定生産のため、適期・適正な栽培管理を的確に情報提供するとともに、生産者の一層の栽培意欲の醸成やいもち病対策などを含む栽培技術の確立・普及に取り組むこととなった。

表-1 「おいでまい」の1等米比率と作付面積

区 分	平成25年産		平成26年産		平成27年産		平成28年産	
	面積 (ha)	1等米比 率(%)	面積 (ha)	1等米比 率(%)	面積 (ha)	1等米比 率(%)	面積 (ha)	1等米比 率(%)
中讃管内	572.7	94.3	631.5	74.2	994.1	72.9	984.5	65.5
うち 綾川町	470.0	96.0 (91.1)	455.0	84.3 (64.2)	464.0	75.5 (40.5)	440.0	83.7 (60.4)
香川県	645.9	92.0	723.1	73.4	1,254	74.8	1,288	65.3

●普及活動の経過

1 4年間「全ての生産者」に栽培管理情報を配布！

栽培開始前の講習会では、過去の反省を踏まえ、特に「いもち病」対策や土づくりなど、改めて基本技術の重要性とその励行を呼びかけた。

また、県「おいでまい委員会」と連携・作成した「特A再チャレンジ！」と称したパンフレット（5, 6, 7, 9月）は、JAの協力を得て綾川町の「おいでまい」生産者全戸に配布、周知した。

一方、新たな情報提供手段として、当普及センターが提案した栽培管理情報の掲示板「おいでまい通信」がJA営農センターやふれあいセンター、各支店などに設置され、生育状況に応じた水管理、適期防除や適期刈取などを推進した。



「おいでまい」通信

2 食味高位安定などを目的とした実証ほの設置

1) 食味高位安定実証ほの設置・調査

「特A」復帰に向けて、より高品質・良食味米（外観品質1等、整粒歩合85%以上、玄米タンパク質含有率6.5%以下＜水分14.5%補正後＞を目標）の栽培技術を確立するため、土壌診断に基づく土壌改良資材や食味向上資材の施用、穂肥診断に基づく穂肥量の調節など、様々な技術を組み合わせた実証ほを綾川町内2か所に設置・調査した。

2) 珪酸入り一発肥料の実証ほを設置

稲体の健全化による登熟向上と施肥の省力化を目的として、珪酸入り一発肥料（試作品）の実証ほを設置し、資材の効果を確認した。

3) いもち病常発地帯における防除対策の検討

「おいでまい」の安定的普及には「いもち病」対策が欠かせないため、綾川町内に長期残効性のある箱施用剤の実証ほを1か所設置・調査した。

3 「おいでまい」品質・食味コンクールの開催

「中讃地域おいでまい生産者組合（平成24年設立）」主催の28年産「おいでまい」品質・食味コンクールは、県「おいでまい委員会」で認定された「おいでまいマイスター」を含む計42名（綾川町15名）から出品があった。

出品ほ場となる栽培基準田には、消費者への安全・安心のPRも兼ねた看板を設置し、肥培管理などを記載することで近隣生産者への技術の波及を図ったほか、JAと連携して葉色調査や分析サンプルの坪刈りを行い、品質・食味を判定して順位付けをした。



栽培基準田の看板

4 「おいでまい」栽培者研修会の開催

品質・食味コンクール表彰式に併せて栽培技術研修会を開催し、28年産品質低下要因の解析と次年産に向けた課題・改善対策を説明した。

また、生産者全員の玄米のサンプルを展示するとともに、品質・食味データを個々にグラフ化した資料をフィードバックすることにより、次年産以降の栽培意欲の醸成を図った。

5 農業用ドローン研修会の開催

「おいでまい」を始め水稻の生産コストの低減と病害虫の適期防除を目指した農業用ドローン研修会を、中讃地域集落営農法人協議会などと連携して開催し、本体の紹介のほか、使用農薬の説明や飛行の実演などを行った。

●普及活動の成果

1 1等米比率の向上

登熟期の曇雨天や穂いもちの発生などの影響により、品質低下が懸念されたが、適期刈取の情報提供や色彩選別機の積極的な導入推進などの結果、倉前出荷の1等米比率は各地域が低迷（県平均31.3%）する中、綾川町は60.4%と高い1等米比率を確保できた。

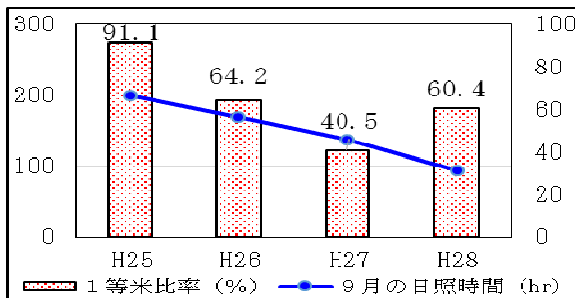


図-1 1等米比率(倉前)と9月の日照時間

2 食味高位安定生産実証ほは好成績！

両実証ほ場とも、適正管理と資材の施用などで厳しい基準値3項目のうち2項目を達成した。

表-2 食味高位安定生産実証ほの結果

目標とする項目と基準値	Aほ場	Bほ場
外観品質 : 1等	2等上	1等
整粒歩合 : 85%以上	85.6%	81.3%
タンパク含量※ : 6.5%以下	6.3%	6.2%

※水分14.5%補正後

3 中讃地域品質・食味コンクールで上位を独占！

きめ細かな栽培指導と生産者の適期・適正管理により、「最優秀賞」を含め、綾川町の生産者が上位を独占した。受賞者には表彰状と「おいでまいPR大使」から豪華な副賞（中讃管内の農産・加工品）



が贈呈された。受賞者とおいでまいPR大使(右端)

中讃管内の取組みが県内にも波及し、「第1回香川県おいでまい品質・食味コンクール」が開催され、県下121点出品の頂点に綾川町の米（最高金賞＝県知事賞）が輝いた。

4 2年ぶり、悲願の「特A」復帰！

2月23日、「特A」復帰の吉報が届き、生産者と関係者が一体となった取組みが実を結んだ。

●今後の普及活動の課題

近年、登熟期の天候不順などで、品質・食味の年次変動が大きくなっている。

表-3 栽培基準田の食味データ平均値

実施年	H25	H26	H27	H28
サンプル数	31	48	46	42
スコア(点)	70.9	72.3	74.4	70.8
タンパク含量※	6.3	6.6	6.2	7.0

※水分14.5%補正後

「おいでまい」のブランド力向上と生産拡大には、実需や消費者が求める“ブレのない”安定した品質・良食味の維持と「特A」を継続して獲得することが重要である。そのため、①土づくり、②ほ場にあった肥培管理、③必須防除などの基本技術の徹底のほか、よりタイムリーな情報提供や現地巡回などを強化する必要がある。

みんなで育てよう！ 「おいでまい」